

## かぼちゃにおけるモザイク病の防除対策について

本島南部のかぼちゃでモザイク病（図 1、2）の発生が多くみられます。向こう 3 か月の長期気象予報では気温は例年並か例年より低いと予想されていますが、媒介虫であるアブラムシ類は冬期にも発生がみられ、モザイク病が発生しやすい状況にあります。貴管下における防除対策のご指導をよろしくお願いいたします。

### 1 発生状況

- (1) 12 月下旬の調査の結果、発病株率は 2.0%（前年 2.3%、平年 1.4%）と平年並であった。また、発生圃場率は 50.0%であった。
- (2) 発病株を抜き取った圃場が多かった。
- (3) 媒介虫であるアブラムシ類（図 3）の葉当たり虫数は 1.64 頭（前年 0 頭、平年 0.12 頭）と平年より多く、有翅虫の割合が高かった。また、発生圃場率は 100%であった。

### 2 防除対策上注意すべき事項

本病はアブラムシ類によって媒介され、汁液によっても伝染するので防除にあたっては以下の点に注意する。

- (1) アブラムシ類の防除
  - a 圃場周辺の雑草はアブラムシ類の発生源になるので除草を行う。
  - b 圃場周辺に防風対策を兼ねた防虫ネット等の資材を利用して有翅虫の飛来侵入を防ぐ。
  - c シルバーポリテープを圃場内に張り、アブラムシ類の飛来を防止する。
  - d 早期発見・早期防除に努める。
- (2) 発病株の処理と収穫管理作業における伝染防止
  - a 発病株は発生源となるので、見つけ次第抜き取りビニール袋に入れるなどして密閉処理し、圃場外へ持ち出し処分する。
  - b やむを得ず発病株を残す場合は、収穫管理作業を最後に行うとともに、アブラムシ類の発生に注意し、早期防除を行う。
  - c 本病は汁液伝染するので、ハサミや手の消毒、洗浄を行う。
  - d 収穫後の残渣は発生源となるので速やかに片づける。



図 1 発病株



図 2 発病果実



図 3 アブラムシ有翅虫